



## 企画記事 座談会

### テーマ「継続研さんと交流拡大」

10月13日 於「新橋美の」(感染対策店)

(はじめに) 京大技術士会では新たな目標として「会員同士の交流拡大」を掲げています。その実現のため、緊急事態宣言の明けた東京で4人(ワクチン2回接種済)が集い、大いに語りました(広報近藤一寿(記))。

#### 【参加者(敬称略):部門、年齢、文中の発言】

竹内将人:化学、42歳、以下(竹)

近藤一寿:建設・環境、52歳、以下(近)

嶋田弘僧:情報・総合技術監理、66歳、以下(嶋)

澤田雅之:電気電子、68歳、以下(澤)

\*マスク会食のため、会場外で撮影した写真を掲載

#### 【継続研さんと交流拡大への想い】

(竹) 研さんを通じた交流は素晴らしいと思っています。日本技術士会の青年技術士交流委員会等のCPD行事を通して継続研さんしています。その活動で社外の技術士と交流し、他県の技術士や海外の技術者団体とも利害無く交わることが出来ています。今はそれをどうやって本業の成果に繋げていくのか手探りしているところです。



竹内将人氏

(近) 月1回「本物に接する」機会を意識して作っています。感動する感性を磨き、人を感動させる仕事を目指しています。東京では世界的な芸術作品を鑑賞し、青森ではおいらせ渓流などの素晴らしい自然を体験しました。

本物に接することに「人と会う」も含んでいます。52歳にもなると座学ではなく、人と会話してこそ学びがあると思っています。京大技術士会もその想いで入会しました。



近藤一寿

(嶋) 技術の進歩は日進月歩なので、継続研さんは必要だと思っています。技術士会のCPD委員会に所属していたので、CPDは楽に獲得できました。神奈川県支部のCPD委員会では今日お越しの澤田さんにも講演してもらいました。

技術士会の活動でいろんな分野の人と交流できました。会員として参加するより、幹事などを務めると交流が10倍くらい広がります。40代のころ青年技術士懇談会の幹事を務め、他部門の方とも交流し、そのどれもが新鮮で今の人脈に繋がっています。京大技術士会は設立時から幹事として交流してきました。今は会員700人と規模が大きく、一般の会員からどう見えているかが気になります。一般の会員



嶋田弘僧氏

の方にも HP など活用して、交流の機会に参加してもらいたい

(澤) 一般の方で特に企業内技術士の方はもっと PR して交流を求めた方が良いですね。

(近) 今回の座談会企画は一般の会員も「楽しい！」と思ってもらえる企画にしたいと思いました。

(澤) 警察退職後に独立開業の技術士として道が開けたのは、まさに「継続研さんと交流拡大」でした。京大技術士会にも交流拡大を期待して参加しました。

技術士の集いとして「IT21の会」や「技術士協同組合」に参加しています。ここでプレゼンや執筆の機会をもらいました。この積み重ねが信用と実績になり、講演や執筆の依頼がくるようになりました。

私の継続研さんは仕事そのものです。執筆やプレゼンする時は 1 ヶ月かかりきりになります。その結果が結晶となり HP に乗る。生きがいそのものです。技術士の CPD 制度は手段が目的化してしまっているように思えます。

=====

#### 【問題意識について】

(澤) 竹内さん世代には問題意識をもって仕事に当たってくださいと言いたいですね

(近) 私が技術士受験支援のスキヤキ塾で教えている「問題＝目標－現状」ですね。これを会社で上司に直接言って、怒らせたりしたこともあります(笑)

(竹) 僕も言ってしまう方です(笑) 社外のコンサルをお呼びして、僕の言いたいことを言ってもらえればよかったと思いました。

(近) たとえ話を用意して、それで気づいてもらうようにすれば良いと営業時代に言われました

(澤) 私も警察時代の 40 年間は我慢の連続でした(笑) それが今解放された感じで楽しいですよ!

=====



澤田雅之氏

#### 【技術の応用について】

(近) 真の問題点を探しあてるには、「なぜ？」を 5 回繰り返せとトヨタ自動車の本で学びました。澤田さんはそのスピードが速そうです。

(澤) ニーズとシーズのマッチングをいつも意識しています。

(竹) それがまさに技術の応用能力ですよ!

(澤) 資格としての博士は研究能力、技術士は応用能力の証明です。

(竹) 私も近藤さんと同じく、技術士取得後に技術営業をしました。業務提案しているうちに、これこそまさに技術士の仕事じゃないかと思えました。

(近) 嶋田さんの情報工学の分野でも、やはり良い技術者はお客様のニーズをしっかりとつかんで提案していると聞きました。

(嶋) 情報工学だと技術士以外の資格も多いですね。独占資格だと業務範囲が限られるので、技術士はその点自由度は高いですね。

(澤) 私は技術提案する場合に、課題－解決策－期待される効果を A4 で 2～3 枚にまとめるようにしています

=====

#### 【勉強と仕事について】

(近) 欧米は労働の対義語で勉強があり、仕事は罰と捉えています。日本だと宗教的に労働＝信仰になっていると思います。

(竹) そうですね。欧米だとルールを厳格に決めて支配する感覚だと思います。指示する人と作業する人が分かれています。日本だと現場で考えながら作業もするし、労働の喜びがありますね(笑)

(澤) 私は勉強している感覚はないですね。夢中でやっているの苦になりません。70 歳超えると劣化するかもしれませんが(笑)

(近) 80 歳でドラムを手習いしたら、脳のその部分だけ発達していたそうです。脳は使うほどに発達すると思っています(笑)(了)



コスパ最高の和食、大事な人の会食にどうぞ 近藤一寿

## 新規会員の自己紹介

### 自己紹介



小林 利行



1997年にエネルギー応用工学専攻を修了しました。原子核工学専攻から分離したばかりの研究に所属しておりましたので、原子力起源の熱エネルギーの有効活用に関心がありました。その影響で、社会人として最初の約10年間は鉄鋼会社の研究所で熱流体に関連した技術開発を幅広く経験させていただきました。現在は自動車会社で自動車のエネルギーマネジメントを担当し、低燃費/低電費を通じて地球環境保護に微力ながら貢献したいと考えております。

技術士資格は、昨今のコロナ禍による在宅勤務化で得た自由時間を活用し、昨年、機械部門で合格しました。"取得すると見える景色が変わる"と先輩技術士から伺ったこともあります。私の場合、まだまだ勉強不足の自分自身がはっきりと見えるようになりました。

今後、当会の活動に少しでもお役に立てればと存じますと共に、企画行事に積極的に参加して自己研鑽を積み重ねてゆく所存です。

(平成9年工学研究科修了、機械部門、ダイハツ工業(株))

★ ★ ★  
**WELCOME!**



## 第13回講演会開催

京都大学東京オフィスにて、2021年8月2日に京都大学技術士会主催の第13回講演会が開催されました。今回は、電源開発株式会社取締役常務執行役員再生可能エネルギー本部長代理の嶋田善多氏(工学研究科修士課程1982年修了)を講師にお招きして、「再生可能エネルギー導入拡大に向けた洋上風力の動向について」という題目でご講演をいただきました。



嶋田 善多氏

講演会では、風力発電の仕組みから、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた洋上風力の動向とその課題について、わかりやすくご説明いただき、参加者からの質問に対しても、一つ一つ丁寧にお答えいただきました。



講演会の様子

**【参加者の感想】**

本講演会では、洋上風力事業が推進されている社会的背景、動向や、欧州での先行技術を今後日本で広く導入するための課題等について、事業者さんのお立場で非常に分かり易くご説明頂き、大変有益でした。なお、私は会場にて参加させて頂きましたが、ご参加人数は多すぎることなく、またご講演を生で直接拝聴することで臨場感を感じながら、より一層理解を深められたと感じております。なお、今後の会場参加での各種講演につきまして、社会情勢が落ち着きましたら、質疑応答のみならずフリーディスカッションのような形での意見交換を実施するのも手かと思いました。

最後に、難しい社会情勢の中で本公演を企画・立案された関係者の皆様にも御礼申し上げます。

**【建設部門 嶋村 知久（正会員）】**

今回で 13 回目となる講演会ですが、私は今まで度々参加させて頂いており、今回は初めて Zoom から参加させて頂きました。京大技術士会として初めてのオンライン講演会の運営でしたが、初めてとは思えないほどスムーズな運営であり、今後も同様な運営をお願いしたいと思いました。（無料でしたし）また、テーマが洋上風力と、再生可能エネルギーの導入が推し進められている現状を踏まえたテーマの選定でしたし、自分も同分野に携わっているので非常に参考になりました。特に、近い将来に活性化する浮体式洋上風車や既設着床式洋上風車の撤去に関する情報共有や、現状の再生可能エネルギー導入に対する具体的な課題の整理はとても参考になりました。

**【建設部門 中島 与博（正会員）】**

この度はお忙しい中、貴重なご講演を聞かせて頂きありがとうございました。

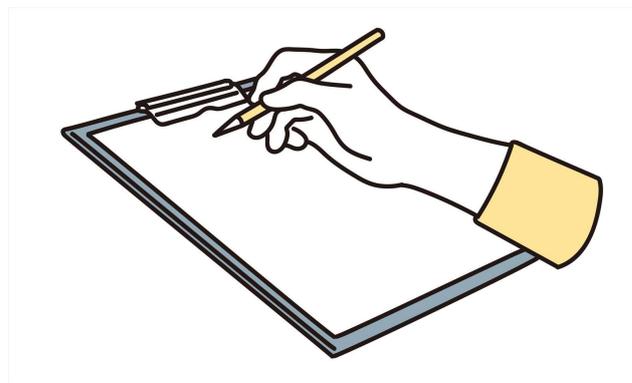
世の中のカーボンニュートラルに向けての流れから、御社の風力取組、洋上風力の取組状況、課題な

ど、多岐にわたる内容を聞かせて頂き、今後の取組に向けて非常に得るものが多い講演でした。

印象に残っているのは、やはりこれから洋上風力においては、風車の大型化が進み、それに伴う、基礎、作業船なども大型化せざるを得ない状況になり、新たな設計、改造等が必要になるとのことで、現実的に大型船が世界中で不足しているとのことでした。

今後の計画において講演での内容を意識し、洋上風力のスキルを高めるとともに、プロ意識を持って業務に取り組んでいきたいと考えています。

**【技術士補（建設部門） 三浦 康文（非会員）】**



## 第 9 回大会・特別講演会開催

2021 年 11 月 6 日（土）、京都大学ホームカミングデイ(オンライン)開催日に合わせて、京都大学技術士会第 9 回大会・特別講演会が百周年時計台記念館国際交流ホール I・II と YouTube 配信で開催されました。今回は会場 32 名、オンライン 134 名の合計 166 名の参加がありました。

講演会に先立ち、大津宏康会長（工学研究科 1981 年修了）の挨拶で、DX で社会が変わろうとしている今こそ、過去、産業やインフラによってどのような社会変化があったかを知る必要があるというお話をいただきました。引き続き、大西名誉顧問（工学部 1968 年卒）から今日の講習会を今後の飛躍につなげて頂きたいという激励を頂いた後に、樋口義弘副会長兼代表幹事（工学研究科 1984 年修了）から活動報告として、2020 年度の事業・決算報告と 2021 年度の事業・予算報告および活動内容の説明がありました。

次に副会長の高橋良和教授（工学研究科 1996 年修了）から『京都大学創立から続く土木工学の系譜と都市建設』と題してご講演いただきました。来年 125 年を迎える京都大学の中で、創立時からあるのは土木工学と機械工学で、1 期生が京都市に入るなど、京都大学の土木と京都市は関係が深く、京都のインフラ整備に大きく携わってきており、今の成熟した社会においてそれを新陳代謝させる土木の役割についてのお話がありました。

特別講演は、副会長の榎木哲夫工学研究科長・工学部長（工学研究科 1983 年修了）から、『人間中心社会に向けた人と機械、ヒトと AI の協調』をご講演いただきました。自動化、AI がどれだけ進んでも、全てを機械に任せることはできないという事を、航空機事故の事例や車の自動運転におけるヒヤリハット等で示していただきました。今後は人と協働できる自動化が必要であり、人が主役となる

IoT システム（ネットワークを介して人々やロボットがそれぞれの「能力（Abilities）」を持ち寄り、交換して、今までにない用途の領域を切り開こうという概念）の必要性を講演して頂きました。

最後に、田岡直規副会長兼副代表幹事（工学研究科 1983 年修了）から閉会挨拶があり、参加者全員で記念撮影し盛会のうちに終了しました。



榎木副会長

### 【参加者の感想】

高橋良和先生のお話だけを視聴しました。先生の御専門が橋梁であるだけに、京都帝大卒業生の京都市の橋梁に関する協力の話を面白く聞きました。一方橋梁以外に、大学教員のまま京都市インフラ整備に協力した例があるので、これも開示していただけるとよかったですと思っています。祖父田邊朔郎の御紹介を感謝します。



高橋副会長（右）と田邊会員  
（講演資料より）

【化学部門 田邊 康雄（正会員）】

京阪電車の地下化/鴨東線事業は、交通渋滞解消目的であると錯覚しておりました。事業計画の端緒は河積確保が主であり、三条大橋付近の通水能力がボトルネックを解消すべく、戦前から構想があったものという事実を知りました。この事実を知っただけでも本日聞いた価値があると思えました。

【建設部門 野村 出（正会員）】

技術の活用により人間が実現可能なことを拡張し、社会課題の解決を図る取り組みをしています。総合技術監理部門における5つの管理の視点から現在取り組んでいる業務を見直すうえで、榎木先生の今回のご講演内容の視点が大変参考になりました。

【機械部門 佐藤 理（正会員）】

榎木先生のAIに関するご講演については、闇雲に自動化すればよいものではないということに気づかされた。世の人々が盲目的に信じているかもしれないことに警鐘を鳴らし、人間中心社会に向けてあるべき姿を提示していただいたのではないかと考える。

【建設部門 今西 秀公（正会員）】

榎木先生の講演ではAI搭載車の事故のお話が衝撃的でした。自動運転への期待が高まる中、いざという時に機械から人間への権限移譲をスムーズに行うことの難しさを突きつけられました。高橋先生の講演では今まで知らなかった京都におけるインフラ整備の系譜を教えてくださいました。いずれも大変勉強になりました。

【建設部門 樋口 義弘（正会員）】



## 第 22 回 技術士を目指そう説明会開催

11月6日(土)、第16回ホームカミングデーの日の午前10時から、京大時計台記念館国際交流ホールⅠ,Ⅱにおいて京都大学技術士会 第22回「技術士を目指そう」説明会が開催され、現役学生、社会人などあわせて4名の参加がありました。新型コロナウイルス対応のため、ZOOMを使ったオンラインでも実施しました。

同会の佐伯賢一幹事(工学研究科1994年修了)の司会進行の下、はじめに樋口義弘副会長兼代表幹事(工学研究科1984年修了)から挨拶があり、説明会が開始されました。



最初に上田泰史幹事(農学研究科1983年修了)から「国家資格『技術士』について」と題して、技術士制度の概要・主旨から資格の法的・社会的な位置づけ、効用、求められる資質や能力についての説明がありました。

続いて「技術士による体験談」として化学部門・総合技術監理部門の久保田正博幹事(理学研究科1996年修了)、建設部門・森林部門の仲矢順子幹事(農学研究科1994年修了)、機械部門・総合技術監理部門の千田琢幹事(工学研究科2000年修了)の3名の先輩技術士により、それぞれの専門分野での個人的体験に基づいた説明が行われました。企業内技術士の立場での技術士として、技術士資格を取得することで信用度が高まり、社内外での交流・

活躍の機会が増えることなど、技術士資格取得の意義が紹介されました。

この後は個別相談会として、技術士資格や受験に関する疑問点など、説明会参加者と既技術士である会員との間で質疑応答が交わされました。



挨拶する樋口副会長兼代表幹事(右)と上田幹事



説明する上田幹事とオンライン画面

## 会員の自由投稿①

### 独立開業技術士です。

澤田 雅之



私は、2013年に警察情報通信研究センター所長を退職した後、60の手習いで技術士1次試験に挑み、61の手習いで技術士2次試験に挑みました。その甲斐あって2015年に資格を取得できたので、直ちに技術士事務所を開業しました。専門とする分野に関し、月刊『技術士』には次の5本の記事を寄稿しています。- 「飛行ロボットとの共存時代における安全安心の確保(2021.11)」、「公共事業における性能発注(2020.10)」、「ドローンが担う“空の産業革命”(2020.1)」、「ドローンでわかる電気自動車・自動運転車・空飛ぶ車(2018.6)」、「顔画像識別技術と監視カメラが産み出す“機械の目”の特性(2016.3)」  
(昭和51年工学部卒、昭和53年工学研究科修了、電気電子部門、澤田雅之技術士事務所所長)



## 会員の自由投稿②

### 本を出版しました！

筒見 憲三



「データドリブン脱炭素経営」  
～ エネルギー効率の指標化によるグリーン成長戦略 ～

私は長年、ESCO事業等の省エネ・エネルギー効率化の事業化、啓蒙活動に携わってきました。2050年のカーボンニュートラルに向けて、改めて省エネを軸とした「脱炭素経営」への転換を企業と企業人に求める必要性を感じ、本書を上梓しました。脱炭素・サステナビリティと並ぶもう一つの国際潮流であるデジタル化を踏まえ、省エネ・再エネのデータに基づいた脱炭素経営を提案しております。そして「絞り切った雑巾」論の“虚構”から脱却し、デジタル化を省エネ追求に活用することで、日本企業の競争力復活とカーボンニュートラルへの道筋を描くことを目指しました。

(昭和54年工学部建築学科卒、昭和56年工学研究科建築学専攻修了、株式会社ヴェリア・ラボラトリーズ代表取締役社長)



## 会員の自由投稿③

### 生涯現役を目指して

八木 健吉



コロナ禍の今秋、80の大台に乗ってしまいましたが、技術士活動を通じて生涯現役を目指しています。現在も繊維産業を技術士の立場で支援するという理念を掲げた日本繊維技術士センターに属し、繊維技術士を目指す人たちのための受験講座や、今や大学では手薄になった繊維の基礎教育支援のため、繊維ベーシック講座、高機能・高性能繊維講座、アパレル講座などを開催して次世代繊維技術者の育成を図っています。

また繊維学会誌、繊維機械学会誌、加工技術誌など繊維関係の雑誌への執筆も積極的に行って、繊維の面白さを伝えています。今の時代、大河ドラマで人気の渋沢栄一や五代友厚に感化を受けた広岡浅子の「小我(自分のためにしたいこと)に固執せず、真我(社会のために為すべきこと)をみつけなさい」という言葉が大事に思えます。

(昭和40年農学部卒、繊維／総合技術監理部門、  
(一社)日本繊維技術士センター 副理事長)



## 会員の自由投稿④

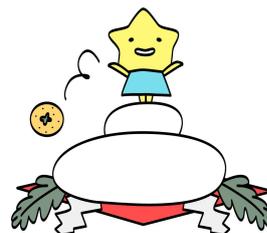
### 製造業とDX化の推進

藤岡 昌則



いまやメディアでDX(デジタル・トランスフォーメーション)が語られない日はありません。製造業の文脈で言うと、DXはデジタル化を行って製造業に決定的な変化を起こす事を意味しています。元々現場では、定量化や数値化は古くから行われて来た訳ですが、日本の製造業がなかなか馴染めないのはなぜなのでしょう。1つは、具体的なデータの中から不要なものを捨象し、重要なものだけを抽象化してゆく概念思考法にあると考えられます。この発想は、古くから社会科学の基礎となっていますが理系では深く学習しないことが挙げられます。我々技術士は、従来の定量化や数値化のみならず、概念思考法も習得し抽象化や一般化により製造業のDX化を推進する必要があると考えます。

(平成29年京都大学博士(経済学)、機械部門、三菱重工業株)



## 会員の自由投稿⑤



### アカデミー会員と CEng

川崎 芳樹



アカデミー会員は、嘉門京大名誉教授の“京大技術士ならアカデミー会員に推薦する。”の、一言に飛び付きました。選考書類もさることながら、会員名簿から三名の推薦者を探し出すのが大変でした。3月1日付けで正会員に登録されました。CEngは、当初米国の技術士に当たるPE取得を目指していましたが、何度受けても合格せず、PE日本事務所の故鹿野女史が小生の落胆ぶりを見かねて、“川崎さんはお歳だから計算主体のペーパー試験は無理よ。イギリスのCEngにチャレンジしなさい。”と、貴重なアドバイスをいただいたのが取得のきっかけです。まず一次審査として、学歴・成績証明書が必要です。二次審査は、書類作成が大変です。実績を英文で作成する必要があります。小生は、日本支部長Robo氏に添削をお願いしました。三次審査がウェブでの面接（英国一人・日本二人）でした。提出した実績に対する口頭質問です。7月に面接10月に合格しました。足掛け二年を要しました。現在、中国の家電会社である美的社に勤務しています。将来の抱負は、歯車技術を目指して欧米を巡るの旅日記を書こうと考えています。

（平成9年11月京都大学院工学研究科博士後期課程、機械部門）



## 編集後記

今回の広報10号は会員同士の交流拡大をテーマに紙面を作りました。みなさま、交流に相応しい広報企画やイベント企画がありましたら、広報までご一報お願いします。

専用のホームページからも随時情報発信していますので、こちらもお覧になってください。

<http://ku-pe.net/>

お近くに加入ご希望の同窓技術士の方がいらっしゃれば、京都大学技術士会ホームページの専用フォームからお申込みをご案内ください。

<http://ku-pe.net/entry2.html>

緊急事態宣言が明けた昨年の10月、東京・文京区にある六義園に出かけました。水鏡に映る緑と青のコントラストに陽の光が射していて、思わず一枚頂きました。

この時感じたことを伝えようとしても、自分の言葉が追いつかないことに気づきます。令和4年は実際に足を運んで、そこで見聞きして、感じたことを伝えられるようにしたいです。

本会においても、会員の皆様と直接会って、お話しできることを楽しみにしています。本年もよろしくお願いたします。

